

新聞委員会

新聞委員会はその名通り年に数回、「秋田高新聞」を発行している。活動自体は単純明快である。しかし、だからこそ自分はこの仕事がこの上ない激務であると思う。なぜなら、広

部活動紹介

さにして二面、四面の紙面のうちに、私たちの持てる発想力、文章力、そしてなにより創造力の全てを結集させなければならぬ。いからである。

秋田高新聞は主に学校行事や部活動の成績などを記事にした部分と、自分たちで一か

創造力の全てを結集

ら内容を考える「特集」から構成されている。現在は、前者の方に比重が傾いていて、そちらに依存しがちである。これら二つの記事は所謂「新聞の顔」であり、私たちが最

も力をいれ、苦心するものだ。

まず、学校行事の記事はどれだけ創造力を働かせるかが鍵だ。秋高祭や卒業式などの秋高生にとって貴重な思い出を文字という姿で如何に遺すか。平凡な記事ではもの足りない。どれだけ生徒の心に残る出を刻むことができるかが肝要である。

次に「特集」。これは文字通りゼロからのスタートであ



る。自分たちが何をしたいか、生徒たちは何を求めているのか、それを如何に発展させるか。創造力、発想力、構成力などの全ての能力が求められる。また、古き慣習に鎮座

するのを潔しとせず、常に新しいことに挑戦しようとする「フロンティア精神」も必要不可欠である。これらをクリアして、はじめて実りある新聞が生まれるのである。

これらの制作活動は、発行日の二カ月前を目安に開始される。初めはまずは新聞全体の見通しを決めなければならぬ。そして、記事に関する本格的な打ち合わせ。喧々囂々とした中で、各自の主張を融合させ、新聞の骨組みが作られる。そこからは、各々の足と頭、そしてパソコンがかけがえのない「相棒」となる。

「記事は足で書け」とは顧問である細川先生の言葉。良い記事を創ることに最も必要

なことだ。そして、その成果を今度は頭の中で練りに練って、記事に命を吹き込む。しかし、これもまた一筋縄ではいかず、幾度ももの紆余曲折を経て、パソコンの前で小一時間も頭を悩ますこともしばしば。そして、完成した記事を細川先生に校正していただき、最後に推敲を加え、秋田高新聞は完成となる。

硬式テニス部が優勝

今年度全県総体は、五月二十三日(金)の陸上競技を皮切りに、県北地区を主会場として開催された。本校は硬式テニス部が五年ぶりに団体優勝。インターハイには、団体個人併せて二種目(硬式テニス、山岳)が出場する。

全県高校総体

陸上競技

中央支部総体	男子100m	藤澤 健斗	第1位
200m	畠山 真慈	第1位	
3000障害	尾形 翔平	第1位	
400mR	尾形 翔平	第1位	

(高橋、佐渡、畠山、藤澤) トラック総合 第1位
女子砲丸投 鎌田 優子 第1位

全県総体

男子100m	藤澤 健斗	第3位
200m	畠山 真慈	第8位
800m	田口 大貴	第6位
1500m	田口 大貴	第1位
尾形 翔平	尾形 翔平	第7位

110mH 近藤 道行 第7位
3000障害 尾形 翔平 第2位
400mR 尾形 翔平 第3位

(高橋、佐渡、畠山、藤澤)

棒高跳	船木 大資	第2位
走幅跳	佐渡 夏紀	第4位
三段跳	佐渡 夏紀	第7位
混成八種	藤井 翼	第2位

バスケットボール

全県総体

男子	1回戦	秋田89-73平	成
	2回戦	秋田105-41鷹巣農林	
	3回戦	秋田63-69本	荘
女子	1回戦	秋田46-49横手清陵	

田口 瞭	8位
トラック総合	5位
混成総合	2位
総合	5位